





さくらとて色

百書

佐藤安司蔵書

ゆめを

私活しえくしこわ
さるなり

さえが

学同利振かり
事なり

さけさせ

不意しきりし同
事なり

さんち

事なりし事なり
事なり

さいし

天子方これ上より
事なり

おを

年と事いふなり
事なり

され

事なりし事なり
事なり

さかひ

事なりし事なり
事なり

さく

事なりし事なり
事なり

五



いひしは せうじ 死むるもの

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

いひし あま 天のまじき神

うしれ石 うらさきを細かると

うしれ水 そとがらうの水

うしれ こまかにひきか

うしれ やしら源氏

うしれ さわぬこと

うしれ まのまは啼ゆ

うしれ 初まてり崩す

うしれ ふるえ又杯の各り

うしれ 三枝の花折て調研

うしれ すいとんあつたり

うしれ たてがえ

うしれ かたり

うしれ かたり

うしれ かたり

うしれ かたり

うしれ かたり

うしれ かたり

うしれ かたり

うしれ かたり

うしれ かたり

さくらん ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくらんが成盛 ？ ちんねんれんじつしんたえん

さくら戸 さくらのまよひ 此戸

これい いふこと

置ひき 田舎にきりつて

さくら 此信の人なり

さくら別 不吉別死つれ

さくら さくらさくら

さくら 乃祖許

さくら 善の事

さくら さくらさくら

さくら さくらさくら

さくら さくらさくら

さくら さくらさくら

さくら さくらさくら

さくら 男二人喜むれ

さくら 女二人喜むれ

さくら さくらさくら

さくら さくらさくら

さくら さくらさくら

さくら さくらさくら

さくら さくらさくら

さゆあ だゆあ じゆあ 助字

さよとつらわま 夕の暮る時

さじゆり舟 唐船たゆまじ

さきすし け 湾ありとさし
さしりゆらま

貞十一 ちよすんじゆ云

さくろつろさ 久赤江茶一り云
かろ 極麻さくろつ 暖

さかお姥 七夕あり

さくれ文 仲洗の内文の事

揚くれ文 さくれやこおれ
ていさくろつ 蕨の事云

さよ唯 ちよす 書こま浦流の

さしとて ちよす

さしとけい かりこらさけい

さわく 合点あり

さくば ちよす

さしとて ちよす

さねとく 酒の事

さけの雲 ながき事

さくら男 月の名

さしたのうかて 田の海かり
てい海の名あり

さん 石の名

さし一本 九百七十八の伏せ

さしあは 橋本かり

又悲の玉 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さしあは 誰とあはし

さかれば 舟さす人の奇し

さうかろうし 血さしかり

さうさ くらん事とまらり

さうの國 近江の國の色

さう竹 枕詞さう竹はかきさう
用

されらの歌 蘇このつしんり
とよかり

さ井 真に候れ云田草し山田の
井とさきふかり

さ月の流 百條流しと六月
午時に南舟中と井

さし草 草らり

ささく さらくとも

さくせん 菘よひ移り井かり

さしとさか 男とよはし路の記
りかり

さしゆき 弓の具の中ふさ
とあかりかり

さよす人 林系男と歌とま
ねぬ人かり

さうさ 小圃かり

さち 幸の字しは

さ

ささる 実の作時の
お月し

されもて 四季の

さかれば 黄泉冥途

まじひ馬 まじひ

うねる 秋の夜をかり

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

まじひ 二月の夜

うんちり 海なり

きすくおて こくたし

きりれん中 芳の露中し

きりのかりり きりまてり力
まじふと云

きりくりり 日月の夜と夜事
夜配

きりり まじやいり

きりふれ りりり夜し
ふしと云

きりみら ふらりりりりり
うふらりり

きのみら りりりり
き通

きり水 九月九日の酒のり

うんちり りりりりりりり
ちりり

きりり 木下二重りりり
りりりりりりり

きりり 梅かりりりりりり

きりり 名目りりりりり

きりり りりりりりりり

きりり りりりりりりり

きりり 日投りりりりり
りりりりり

きりり りりりりりりり

きりり りりりりりりり

このれが不ひもか
たつて地 地の名なり

本此まはる 比一 名系を
はらる(天智)
二所立本丸友

まじりた 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時

まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時

まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時

まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時

まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時

まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時

まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時

まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時

まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時
まじりたる 一 録方(物)はく時

登るのみにて返しせんよ
大いなるもの

ゆめれく麻つゆのまき

登る家 弓矢絵なり

ゆふすこ人 針糸より小夜かな

登流う 針およそ枕木

ゆふけり 夕よふ家事

登るかみ ゆきうよふしんひ助
字かわり行しつゝの云

ゆし記 さまくしん思字
不記事やも月

登る海ふ由まかり

ゆめれくら弓絵がら

ゆふあまらり 登りよ事と
ゆわらうこは

のまきとまき

ゆふす記 一のまき十一面と
すかわり又うり草
のまきかわり赤糸の河津娘の上よりくは

登りて 一のまき一いり者本帰
かわり七五三といふ

ゆふす人 登りよ事と
なすよ

登るDがく ゆきとさか紙を
糸より又ゆい

ゆふすも

ゆふす 一いり者本帰

登りて 次 ゆく所をいりかむ行

ゆふすよひ 登りよ事と
登りよ事と

ゆふすも

谷うさか と困かかひのうさ

ゆき かきり 行と かきり

谷をい いあさふまのま

ゆき ゆきんか

谷 ゆきんか

ゆき ゆきんか

谷 ゆきんか

ゆき ゆきんか

ゆき ゆきんか

ゆき ゆきんか

ゆき ゆきんか

ゆき ゆきんか

ゆき ゆきんか

ゆき ゆきんか

ゆき ゆきんか

ゆき ゆきんか

ゆき ゆきんか

ゆき ゆきんか

ゆき ゆきんか

ゆき ゆきんか

修く... たふし... ことし...

夕火... 川... せき...

雪れ... 雪... け...

ゆき... と... け...

雪... 卯... け...

ゆき... ま... け...

ゆき... つ... 概

修... 物... 田... 舎... 有...

ゆき... い... け...

夕... 育... け...

修... け... 概

長... 昭... 皇... 太子... 孫... 定... 之... 和... 別... 法... 隆... 寺

雪... 毛... け...

雪... ゆ... け...

ゆき... 毎... け...

雪... 神... け...

雪... 水... け...

ゆき... お... け...

ゆき... ま... け...

め

めさうー そのつゝのふく又海の邊と
八海共

めんご何や 後の又し彼らこゝろ
のふくめん

めんごめん びららのゆゑにふくめん
かや

めんごめん うゝゆかや

めなにい 文彦梅

めそだたせ あさきかや

めんがき 足がねなるん

めさゆー まじらうーくみさ
かや

月とそとせ そいゆかや

めい さき

めい 是もさき
松浦川り記

めん これしあ
いんまきかや

め 面目かや

めん 月夜あつた
こゝろい

め えゆか
月海と云

めん はつた
言天

め 目と
目覚

め 女や
かや

めん こゝろ
かや

め かや

近文

下

先んてくつろの 感一ろのこみりて
ゆふりーい合の海

ゆもか紙か 一かめらつ細いゆめを
いさふかきーたさ

ゆらーうせ 思入のまこらん

ゆーとんか 日美人と云

ゆんそめ っのいのまこ同僚

ゆりーかれのうろこ

先づの鳥 一ひらひらつちとんこ

目ふかぬち 焚あつたも小集と云
こもちかり

ゆなとま 下やうのまこ

ゆんけい男 業平か

ゆもまひして かなんてんてんてん
かど

ゆんが紙 あつゆり事

ゆかーふ 思入のまこ事

ゆんくれと 対面せぬこ

み

みやひ 橋とらけ事 嫁言こ

みやこ鳥 一とめかわし

みろー 一とぬこは上教 一書こ

とんてんてん 一かど
一かど 一官字一書

見じ海

とこかの海に水

男どし雨

そくぬし雨

みされえ垣

蓋うて組

みそ

水衣かり

見か月

六月か

みけくき

毛とりよし又名

凌志心

わうこの海の白き

みかせ鳥

集とつ水

見くめ鳥

くひよ

みさう

炎

見と

見と

みし

林のま

見えに

酔

み

み

真の水

見れ

み

み

み

見

み

み

み

み

み

みくらしき みくらしき

みくらしき みくらしき

見はらゆひ 見はらゆひ

見くらしき人 見くらしき人

清くらしき人 清くらしき人

みどの口 みどの口

見くらしき川 見くらしき川

みくらしき みくらしき

みくらしき川 みくらしき川

見くらしき 見くらしき

見くらしき 見くらしき

見くらしき 見くらしき

見くらしき 見くらしき

見くらしき 見くらしき

見くらしき 見くらしき

見くらしき 見くらしき

見くらしき 見くらしき

見くらしき 見くらしき

見くらしき 見くらしき

見くらしき 見くらしき

見物く又

山打文と申すのり
火まじし字又すりま

見ともしれ神

六位の一やうとくこ

みさか

まのなせりといふ

見さかめく家

あれも物のぬん
せしはれ神を

みけまくむ

いかにの言水神と
うめり老嫗の飛

見らうく家

月の事三月はうの
ごういふこと

みとれまくむ

婦夫和合の事
神代より天の

みせりま

いふやうの事

見はれま

三梅は梅の事
いつしのも他と

みせりれ林

ぬまの事

見そさ祿

荷と申す事や

見月ま

商人かきとの事
いふこと

見てく

ぬい事

みららみ

ぬりらひ

三門の道

三徑は門井則の事

見く

かきこ

見せり

水景か

みく

装束潤すの事
いふこと

三波まよひ 三波のまよひ

見ゆらぐの面 祝かり

三之重れ袴 中信あかり

みらやう 水柱のこころ

見かひ 甲のまろ

みさき 結をこ

三の女 翠の酒の女

見おろ 十にみら

見はかり 見はかり

みそ みそ

見ゆ 女ハ親ま子の

みら みら

見て 見

み 明石中

見 表裏の事

みや みや

見 見

水 水

み 後の時

見 見

みやまら〜 文つらの木がきこえ

見ふれよ うやの夜又七夜

みゆめ縄 水は連とま

見のほどこまらり わやまらり

みゆま 水は生し、古形九半、大の杯、日延日かり申の目

見うけり原 名和、わくと内裏、仙洞下の水垣

見り ま上のあー、行らる

みれ志海衣 見のと夜、まじ敷、代衣又力まらり

見のけり水のけり

見こころ 水の勢、うと云

みくれ 水うが、海と水、流又

水れこら 水のまき、あ

みあ みあかり、こふん

見なれ 水うが、り、あ

朝のてふ 朝のあま、い

二輪れ こあ、い、木、ぬ

みあ 天子、萌、津、の、日、と、り、さ

みち 見、遠、こ、又、云、道、の、ら

見せしむ 由儀大かり

三えき生れ解 ぬ方の上三枚

包まこの糸くくわのいと法いりて

宮柱めぐり合 伊勢道三井 一年めの法

見あふふ 見あふせ

三河のかりし 天祥まきし

てうかちまきし三角柏こし

もと水くまけてはこ三河のい画像い

く水のくもた又水なうし

見はくかした 右同かこまいけふ

見よとまきいぬ かくりたき

三れつゝさ 三徳

と乃道ふふ家 三途かき

みぬ 戸まきし封付る

見くれう記 琴し行る

みこりらとれ神 みの中おあり

見川水 大内うらうとかなと川

道乃かあし ち祖神

みとらとれ洞 玉の四十二りや霞

水乃記 ともとの事

みさし草 桃のまき

見せりれ記 梅の事

水乃夜 氷の事 氷のさぬたふ

みささき 氷の事

見ら草 日お三千粒

みそく 暗日 亦日

見さ記 玉の事

みぬ 氷の事

見てりの 氷の事

見かせ川 天川 氷の事

みんえさ 氷の事

道たれ物 氷の事

見し 氷の事

見し記 氷の事

みなき 氷の事

見たれさか 氷の事

みり記 氷の事

みり記 氷の事

道行あり 氷の事

水かけ草 氷の事

みり記 氷の事

道りく草 卯花かり

みきく路 柿田こし代

みく山 一 野かり

みく山 いたら鏡山と
よかり

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

みく山 三枝の鏡と
酒持と

水のせきん 口水縮こ

三れりしめ 元日がり

みまれのつひ 実茂の条はねの家のこまら

葵とくはかり

三草れたうし 三後の新室

見この交 長文の事

みる起りや 海門の事

見くのまろく 藤を焼く

うしと ながしやふけり

早堅しる 耳川くたれ人なり

とくまのしん 勢勇色勢の久家なり

見やこしと 殿上人のまてまゆりしは夜こ

とけの口 國の名に品字とて長こ 是て國のまかり

三流の灯 日月星こ又三輪 芥山よこのみと

此と路事とあれとも

見ま かしきのまより やかきしを

三門の廣あ 玉池登こ

道口のなけ 越前の名所たる 右を中ねの川

助とよ みるか けむんを又はれかき

みひん指 亮て赤齒三浦口へ

見とせし 男の水と身とをこ

みそに 非折を他亦に世を

し

あひく 女の教束の上よとあひく
うらみとこしよかひ

あやう かんちん

あけら やまよとにまわりまわし
ふんくちら丸

あこせん わきま

あはれし あはれし

あふく あふく

あふく あふく

あこ鳴鳥 あこ鳴鳥

あけり あけり

あひの あひの

あひ あひ

あひ あひ

あひ あひ

あひ あひ

あひ あひ

志保り千手家 といふなり

しんがむし 乃のしんがかり

志井菜の山 仁慈せぬ山

志いのこやん 志いのあしお枝こ

志井菜の神 志いのあしお枝この

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

志いのあしお枝こ

あり年 あきねのしん

あしはらみ あしはらみ

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

志乃のこし こし

しんじの しんじ

志乃 志乃

志乃 物本

志乃 志乃

しんじ しんじ

志乃 志乃

志乃 志乃

志乃 志乃

志乃 志乃

志乃 志乃

志乃 志乃

志乃 志乃

志乃 志乃

志乃 志乃

志乃 志乃

志乃 志乃

志乃 志乃

志乃 志乃

志乃 志乃

しんじ しんじ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

西抄

三十一

志く燈 松立神と白蛇

志りさ弁 弁のさしわふ液さ

志るひの山海 生元のるこ

しんれんま 森の事と松のつど

志由ひこ 菓子の名あり

志井さか 志井の本そし化をもち

志れ教令 津國つりかきその

麻のそつふ 麻の菌こ

霜のこま 霜のこま

志るひ山 大和下松山

しんれんま 道は大津のまこ

志くさ川 山中こ

志るこ草 いもしすりやめたふ

しんれんま 志雨かち

志る車 業どつこし山のうらま

志る流の浦 すまのりの用こち

志るく 思こまにかり

しんれんま 天照太神のれをわ

塩けいお 真の事こ

志乃小吹風 赤く吹笹の心は

志乃ゆい 此くの枕詞に不知火

志乃ちれ錦 赤地うん地がしむね

志乃 志乃のこころふこころ

志乃のん文 びりし女標の義しよと

志乃ゆい 麻の肩の骨と抜

志乃く 浪面しるかにあそ

志乃れ 浪をく浪波と通舟

志乃 志乃と立んたれと

志乃 志乃の志とし云

志乃 志乃の志とし云

志乃 志乃の志とし云

志乃 志乃の志とし云

志乃 志乃の志とし云

志乃 志乃の志とし云

志

志乃れ 志乃の志とし云

志乃 志乃の志とし云

志乃 志乃の志とし云

忍多しあおせりし

忍いまさし 縹冠し

忍ひうし 忍ひあうし

忍し 大鏡のなかり

忍びつらひ忍びし

忍つらひ 是もあはれし

ひ

ひしこし 海の家し

ひしゆり 一向ぶし

ひちまさし ちんちん

ひやれ 國之又唐國

ひこが 男ヒタケり

ひ免まし だ松の事

ひた ちんちん

ひとび ちんちん 柳し

ひかやま 赤坂と

ひた 田舎

ひま子 神あつし

ひとら ちんちん

人免くすし

ひなれ門 唐の門也

ひやなまし 土車の名に人上流
を土車と云ふ言ふ
里とせられて結ぬり人路と名
けいふ

ひやぢや ゆえ出づる

ひやう 秋の結まゝ

ひまぢや こぢりあふ

ひむぢ 六月一日水と帝ハ

ひや こぢりあふ 川流

ひなれ 出づる 浮野

ひな 巴 生

ひあ 田舎

ひや 神

ひ 日

ひ 火

ひ 神

ひ 神

ひ 神

ひ 鳥

ひさゆん 大面とよりのひさゆり

ひち雨内おこ

ひあつ いろち

ひあこ 蛭児と書札の名かり

ひあし ひすろふの親家

ひーのふ世 賢王の代

ひそむ 山ゆのふと幸ひむす

ひかたれが 田舎のふと南海より
もろ子とそなへ

沖はまきくかこくちあちやふと云

ひとるせし けりこ松破子と云

ひれしをひ

新井の赤巻

ひくおりて おしてつぎなき

ひ祿すし 大嵐唐と名前星
の大山と昼和火を

大の中の嵐三尺かむはもと布
と織られと傷布と云

ひくまけりいれけし

人こふあふりこらてこつや

ひといたなら ちのちうけらう

ひ海やうるし 大のまきこん八と云
ととた物と云

ひまきや ちりひら極

ひとれ國のあ 変魂あこ他國
ちくまこ

ひやうやく人かき

ひらりひきり あつゝ敷紙から
かりと又ひらりさ
かりひらりこもしるふかりと又ひらり
くひ衣折を志しらすしりふかり
ひやそり 一張、半一張のふき

人日記 紙別とて

ひや われしを水浴しき

ひはらち中 中のわーとて

引らん 既習し初者

ひらり あか油と水とみん

ひらり 夏の紙 ひらり紙のこ
くひらり

ひらり 危の毛油、茶油の
多ひらり

ひらり 一日のふと終日とて

人たのめ そたのめとて同ん

ひらり 五月又日した遊を
うらと引かき

ひらり ひらり

ひらり ひらり

ひらり 火の色者まのこ油

ひらり 屠下の羊のふき

ひらり 四月一日から水
持かり

ひらり ひらり

人海りかゝぬ 我れがゝるこ

人書ふのうらみ

ひこもへ 本伐地ノ校生をま

ひこけらふ ひこけらふ又ひ
一うふももりわ

ひこ吹く風しひつゝにほい

目乃たふ 元日水と世とそ
ふら水振うり

ひ海りこ海 光陰のふ

ひつらか 田前わたしの二蓋とて

ひまある 秋のまをま

ひす人の箔 白月百の勢

ひと海き 宗廟とまうりま彼
物とくくくくくくくく

ひつりれ水 氷とこはうと地

ひのくれ鏡 伊勢の林とくくくく

ひさつ物 ちのちのちのちのち

ひさし ちのちのち

目れうか ちのちのち

ひら 温か

日れつひの 祇殿いひく地

ひまね馬 いりかた

久々の山 須弥山

二重くつしれ祇 さす祇之大白 祇之天の事

火とせらたの世 佛入藏の事

ひさら帯 麻袴祇之意と折 てるりやひらり

ひより糸 氷のぬい両年とて作 是ハ氷の由りて大 法考き

ひかけのい うらとびいし ぶこ又日けり糸

まは日けりいりふ莫とくさりてんさ さまい

いやは祇 業かた一抱のい

いまての曆 きしとれふと

祇の車 車れおしひさのま しかり

いやは草 きやうかり

廣葉れろ うろかり

い海すろ 次みれとかり

いやは酒 六月と一長よ酒と遠 帝へあすのかり

い糸れか 昔捨とがうて 糸をの事

いかりの法 えい登の事うけい かりとる法かり

いんたの祇 天照太祇のいかり

ひらりも此車 ひんらりのま
ひんらり ひんらり
ひんらり ひんらり

日れ宿 はせ象

人あり日 三月七日あり

ひんらり ひんらり
ひんらり ひんらり
ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

ひんらり ひんらり

色かへく りさふもさくし

色かへく もひくもかひ

色かへく さうの上よお歌事し

色かへく 言百多

色かへく 林田やま百友の君と歌
あかひ

色かへく 此奇 詩をよ押さし奇
とくよ

色かへく せふたの道とせびもせく

色かへく りえふた陰 りえふたふり

色かへく 十又和こを月とさす
の目とりちり

色かへく まらもさか

かわく 此族 もくわんぬり
あつあつ

色かへく 祿 後法の事物言かり

色かへく 百多又まふ

色かへく 此族 祿果に
物し

色かへく かのうにかき

色かへく か人あまに

色かへく 校のたれやうかりふ

色かへく 今よりこれ
せん

色かへく たふの意

色かへく 奥別よ有
びやく

いふじやうやむじやう留園
とくふた 天の敷の百石

り海の中 ありてよ針かき

もみ流る 紅葉かき

り三たむ 日あ

もみらぬ 日とらんぬ

りみら鳥 麻の事

と海の川 ありのうらうら

り海義学 日暮かき

りてふやま つけやうとて
世日

とや 家かきまん中のあはれ
母屋

りいあ娘 七つと百子唯と書又と
もこの地は天川の名に

とちらうけ いらのうけ
りか 藻よくとけく垣さき

もむ 死人を不日か紀よき

りせえ 梢がり未校

藻外れはう 謝 だれの事

とてい ちかり

とれん鳥 枝かき

色のたまき 唐の天白山より流し

もやいひ びらうたは漆地云々
女とも云

もやいひ 草子とのすき
かきかきかき

色白玉丸 漏刻の水の色

りつ立道 我家のりつ

も やとめ字に流り月色
よ記もよやい同お

も 花 葉より流るる
まら

も いふ事

も いふ わさもよこわさ飯
かきかき

も 海 藍の事

も か 真 いふ事

も 百 百千

も 鳥 枝のたひ まの百も
いふ事

も 十 む かき

も て か わ い い い

も い 草 さ ら う か き

も い 草 ら き か き

も い 草 白 か き

も い 草 綿 の い せ き

も い 草 百 千 か き

せ

せしまがら

せしむる下がら

せうせ あにどりこ元才ゆと

せんく かき 第一編

せと 海河落合

せら 舟もわらぬ 大切

せん 十人

せん 事

せん れん

せら 月

せら て

せら て

せら て

せら て

せら て

せら て

せら て

せら て

せら て

せし繩 得よかんと引て赤と
よせし

弟ハ物 らふは眞

せし繩 よせし

す

せし繩 よせし

せし繩 よせし

せし繩 よせし

海一子 胎玉之海

せし繩 よせし

す 麻の鳴を云秋

せし繩 よせし

長み祢鳥 雄かや

す 雌麻とり

す これをかた

す よせし

やう 同類

す よせし

す よせし

長く 女祢

す よせし

すこき くらまきーちん

正へかー 便かー

すも 海 智いの如くふかき

正れ 浦人のりこ

すく 正 山門の由事

正へして まくー

すきこのき 下流凡下

正れまき 節のまへかり

すれまき ぬ色なり

正のこ 云々の事

すかき 木琴うたがら

正こす 正て 正事のかき

すろ 正 正事のかき

正こ 正 正事のかき

正く 海乃 焼から灰のれ

すれ 正山 山城波道中

正れ 正 救急

すれ 正 正事のかき

正ま 正 正事のかき

正れ 正 正事のかき

ま〜し紀道 物菜のち納味
の折よわ〜

ま〜ぬの國 日本のち〜

ま〜ひく ま〜ま〜くあち〜
く〜い〜んもろ

ま〜ひ路 ち〜路〜又〜ん

ま〜けの産鳥 蚕の矢後

ま〜かみ 星神かき

ま〜ら 不毛すり

ま〜ほれ ろ〜く〜ん

ま〜あけ むねをす

ま〜は 佳色時

ま〜 蜻蛉か

ま〜かく 糸ん〜ちかり

ま〜やく ちりさき

ま〜 〜のま〜

ま〜 は坂のま〜

ま〜 〜りき〜い〜ふり

ま〜 〜れきり

ま〜 たぬまかり

ま〜 タ〜かろ

ま〜 万葉の色 帝五
草〜

もみれ村島 すうまゝいそし

もとのりいれと し後の乳母

もかぬとりて 山並の

すれとら 伊女

遷校集巻四之終

はく波を平して海の色は

かりれと海井せしめ美人

此一冊と紙あし東は平を

かたむらうりてれと能人の

本世一痛解... 和元若利

